

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

12月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

報告数4,729件（前月比31.5、前年同月比5.1）で11月から急激な増加を認め、12月下旬には県内全域で注意報レベルの基準を超え、一部の地域では警報レベルを超えて流行が拡大しています。12月の立ち上がりとしては例年よりも早いようです。なかでも菊池地区からの報告が多くみられます。今季インフルエンザ流行の特徴としてインフルエンザB型がA型同様に12月より検出されている点が上げられます。

小児科定点

（全体傾向）

報告数7,776件（前月比2.64、前年同月比1.10）と増加に転じました。これは12月に入り、インフルエンザの大幅な増加と感染性胃腸炎の増加によるものです。咽頭結膜熱の増加（前月比2.0）も目立ちます。また件数は少ないですが、水痘（前月比1.3）伝染性紅斑（前月比6.0）も増加しました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数93件（前月比0.5、前年同月比0.3）でした。今年は例年より早く9月に大きなピークを認め、その後は減少し12月は過去3年間で最も少ない件数でした。年齢的には1歳台をピークとして2歳以下が大部分を占めます。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数283件（前月比2.0、前年同月比1.9）でした。今年は5月から例年より多い件数で推移していましたが、12月は11月から倍増しており、過去3年で最も多い件数でした。とくに菊池地区からの報告が突出しています。1歳台をピークとして6歳以下の年齢層に多くみられます。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数261件（前月比0.9、前年同月比0.5）でした。6月をピークとして7月からは毎月200件前後で、ほぼ横ばい状態で推移しています。年齢的には4歳から10歳までに多くみられます。地域的には菊池、人吉地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,739件（前月比1.3、前年同月比0.5）でした。10月から毎月漸増傾向を認めますが、現在のところ過去3年間で最も少ない件数で推移しています。菊池、有明地区からの報告が多いようです。
5. 水痘 : 報告数88件（前月比1.3、前年同月比0.4）でした。毎月二桁の件数は、ほぼ横ばい状態で例年並みの推移です。12月は前月比1.3と若干増加しており、毎年12月、1月にピークを迎えることを考えると、今後の動向に注意が必要です。
6. 手足口病 : 報告数199件（前月比0.6、前年同月比0.6）でした。夏季のピークがみられなかった昨年と比較し、今年は6月、7月に急激な増加を認め、その後次第に漸減する例年並みの推移です。人吉地区からの報告が多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数6件（前月比6.0、前年同月比0.5）でした。前月比6.0でしたが、年間を通じて少ない件数で推移しています。報告は菊池地区4件と天草地区2件でした。
8. 突発性発疹 : 報告数118件（前月比0.9、前年同月比0.8）でした。6月に235件と多かった他は毎月100件台の報告で、年間を通じて大きな変動はないようです。
9. 百日咳 : 報告数0件（前月比―、前年同月比―）で、今年は6月、7月にそれぞれ3件、4件、5月、8月、9月に各1件の報告で、10月以降は0件で推移しています。

10. ヘルパンギーナ : 報告数52件（前月比0.7、前年同月比0.4）でした。6月、7月にピークを認め、その後は漸減する例年並みの推移を示しています。その中で天草地区からの報告が目立ちました。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数37件（前月比0.9、前年同月比0.1）でした。2桁台の緩やかな漸減状態を示し、過去3年間で最も少ない件数で推移しています。その中で水俣、宇木地区からの報告が多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数52件（前月比1.0、前年同月0.5）と前月比、同年同月比ともほとんど増減はありません。熊本49件、菊池1件、天草2件の報告です。年齢別では20～49歳にピークが見られますが、3、4歳の幼児層、50歳以上の中～高齢層にも散発しています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数44件（前月比0.9、前年比1.0）で、前月比では減少、前年比では1件増加しました。男女別は、女性に25件と多く見られました。年齢別は、男性は20～24歳に6件と多く、女性は20～29歳に17件と多く見られています。地区別は、熊本が35件と圧倒的に多く、次いで菊池、御船、宇城に各3件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数18件（前月比0.9、前年比0.6）で前月比、前年比とも減少しています。男女別は、女性に11件と多く見られました。年齢別は、男性は20～70歳以上と幅広く、女性も15～64歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が9件と多く、次いで八代に4件、菊池3件、御船、宇城に各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数9件（前月比1.1、前年比3.0）で、前月比では僅かに増加、前年比でも大幅に増加しています。男女別は、男性に5件とやや多く見られました。年齢別は、男性は20～39歳に見られ、女性は20～24歳に1件、35～39歳に2件、65～69歳に1件見られました。地区別は、熊本7件と多く、次いで八代、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数14件（前月比0.6、前年比0.8）で、前月比、前年比とも減少しています。男女別は、男性12件と多く見られました。年齢別は、男性は25～44歳に9件と多く見られ、女性は15～19歳、20～24歳に各1件見られました。地区別は、熊本12件と圧倒的に多く、次いで菊池、御船に各1件でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数23例（前月比1.5、前年同月比1.0）でした。ここ3年冬から春まで増加傾向となっていますので要注意です。人吉（定点あたり3.0）、阿蘇（同3.0）、熊本（同2.8）が比較的多くなっています。65歳以上が14例（60.9%）と多いですが、0歳1例、1～9歳2例、30歳台1例と幅広い年齢で報告されています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数3例（前月比 0.6、前年同月比 0.8）でした。ここ3年冬から春まで増加傾向となっていますので要注意です。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数0例（前月 ±0、前年同月 ±0）でした。昨年1年で報告は4月の1例のみと少なくなっています。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0例（前月 ±0、前年同月 ±0）でした。

2. 無菌性髄膜炎： 報告数1例（前月比 0.3、前年同月比 0.3）でした。

3. マイコプラズマ肺炎： 報告数7例（前月比 1.2、前年同月比 0.1）でした。2017年の春から鎮静傾向が続いていますが、水俣（定点あたり3.0）が比較的多くなっています。年齢は10～14歳が4例、5～9歳が2例と多くなっています。

4. クラミジア肺炎： 報告数0例（前月 ±0、前年同月 ±0）でした。昨年1年で報告は1月の1例のみでした。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数0例（前月 ±0、前年同月 ±0）でした。ここ3年1月～7月に多い傾向があり今後要注意です。

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	26件
3類感染症	： 報告はありませんでした。	
4類感染症	： つつが虫病	4件
	レジオネラ症	1件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
	後天性免疫不全症候群	2件
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
	梅毒	8件